

分子生物学・免疫学 キーワード辞典

京都大学胸部疾患研究所教授・細胞生物学

永田 和宏

自治医科大学教授・生物学

長野 敬

東京医科歯科大学難治疾患研究所教授・ウイルス免疫疾患研究部門

宮坂 信之

大阪大学医学部バイオメディカル教育研究センター教授・臓器制御学研究所

宮坂 昌之

編集

福島県立医科大学教授・第2内科

粕 川 禮 司

この度、「分子生物学・免疫学キーワード辞典」が、永田和宏、長野敬、宮坂信之、宮坂昌之氏の編集により、医学書院から出版された。

分子生物学、遺伝子工学、細胞生物学、免疫学で用いられる重要な言葉がキーワードとして選び抜かれ、1,600語が専門家200余名の執筆によって、わかりやすく解説されている。

遺伝子や免疫に関する言葉は膨大であり、また、日々数が増している。臨床に追われる医師にとっては、言葉の正しい意味がわからないままに、論文を読んだり、研究発表したり、教えたりしなければならない。このようなときに、正しい道しるべとなるハンディーな本として本書が上梓されたことは、まことに時宜を得たものである。

本書の特徴は、難解な遺伝子・免疫学用語が図解入りでわかりやすく解説され、表を用いて整理分類され、更に実験手技の用語については、実

験をしたことがない人にもわかるように、実験手技の手順も図解入りでわかりやすく説明されていることである。

MHCクラスI～IIIの遺伝子座、抗原提示細胞の抗原プロセッシング機序、T細胞レセプターの構造と機能、B細胞の分化と機能、CD分子の分類と機能、免疫グロブリンの構造と機能などの説明は図解入りでわかりやすく解説されていて、本書の最も大きな特色となっている。Fcレセプター、オンコジーン、癌抑制遺伝子、サイトカイン、コロニー刺激因子、CD分子、スーパー抗原、接着分子、制限酵素などについては表が作られ、分類と特徴がよく整理されている。cDNAライブラリー作製法、ゲルシフト法、ゲノムクロニング、サザンブロッティング法などの実験手技は、1度も操作したことのない素人にもわかるように、その手順が図解され、臨場感をもって理解することができ、大変ありがたい。

agretope, CAT assay, 分子シャペロンなどの新しい言葉の解説があり、affinity と avidity の違いの説明、RPMI 1640 の言葉の由来や AIDS 発見の経緯など、単なる辞典以上の、読み物としても魅力ある書となっている。

遺伝子工学や免疫学では、言葉の相互関連や事象のネットワークがある。そのため、同意語の異なった言葉や、用語の解説の中にほかの用語が入り込むことが多い。本書は、その点を他項参照などの印を示して、丁寧に編集している。また、末尾に英語索引があるのも本書を利用しやすくしている。

臨床医が論文を読んだり、書いたり、あるいは研究を発表するときに、言葉の意味を正しく理解し、また正しい言葉かどうかをチェックするために本書は大いに利用されよう。

● A5 528頁 図181 写真7 1994
定価 7,725円(税込) 7400

医学書院 刊 (☎ 03-3817-5657)